

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	KB2038	タイプ	公募型
派遣国	インド		派遣都市	チェンナイ	
受入機関	Confederation of Indian Industry (CII) Southern Region				
受入機関概要 (事業内容等)	中小・大企業など7500社以上が加盟するインド最大の経済団体。政府・企業とともに、全土で講演会、人材開発、展示会・商談会等イベントの開催や、政策提言を行う。				
派遣期間	2014年12月3日 ~ 2015年2月28日				
現在の所属先	日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)		当時の所属先	中央大学	
現在の所属部署			所在地	東京都	
区分	大企業		性別	女性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

大学で開発経済学を学ぶ中で、途上国の起業家、中小企業に関心を持ち、現地政府や経済団体が個々の企業活動をどのように支援できるかを、実務を通じて知りたくと考えていました。また日本・現地の機関による日系企業の海外進出サポート事業について学びたく、中小企業支援や、海外との商談会等を開催する受入機関(CII)に応募しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

CIIが主催するIT、自動車、中小企業サミット等のイベントに参加し、参加者がどのような情報を得て、事業に活用しているかを、講演や実地でのインタビューを通じて学びました。CIIは会員企業に向けて、5S活動を積極的に指導しており、企業、工場訪問を通じて、中小企業向け5S導入レポートの作成、インタビューによる日印中小企業間のビジネスにおける課題調査も行いました。また、受入機関主催のイベント開催にあたり、講演者、参加企業の招聘、当日の会場運営等にも従事しました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

中小企業支援、日系企業の新興国ビジネスという関心ある分野について、実務を行う人々のお話を伺い、実情を知ることができました。CIIが主催する講演会、中小企業省が主催するサミット等に数多く参加し、参加者と積極的に交流を図ったことで、経済団体、政府によるサポート、情報提供が、参加者、企業にもたらす影響を学びました。日系企業や、地場の中小企業を訪問する機会も頂き、日系・インドの企業間のビジネスにおいて、難しさや、取引先を選定するポイントを知ることができました。

また、インターンといっても業務や学習環境等が与えられることはなく、目標達成に向けて立てたインターンシップ計画を実行するには、積極的に自分の意思を伝え、行動することが不可欠でした。試行錯誤しながらも、自発的に行動する姿勢、発信力、交渉力、表現力を身に付けました。異文化下ではたらく上で重要な姿勢、所作を学び、自信に繋がりました。

インターンシップ風景



‘Tamil Nadu MSME Summit’
での企画・運営補助



受入機関主催のワークショップ
企業からの参加者、講師とともに

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターンシップ修了後、大学を卒業し、4月にITサービス企業に就職しました。半インド外資の企業であり、インド人社員や様々な国の方と一緒に働く機会も多く、インターンシップを通じて向上したコミュニケーション能力、英語力、積極的に行動、学習する姿勢は、多文化環境の中で働くうえで非常に活きています。

入社後、研修は全て英語で行われ、英語でのプレゼンテーションの機会も多数ありましたが、インターンシップでは周囲との意思疎通、インタビュー等を英語で行っていたため、抵抗を感じることなく自然に英語での意見交換、発表ができるようになりました。特に約1か月間、インドでの研修に参加した際は、インターンシップで学んだインドの商習慣、文化をきっかけに、現地社員の方々と積極的にコミュニケーションをとることができました。3か月の滞在によって現地の文化、途上国の生活環境に浸り、得た身体的、精神的タフネスは、異文化環境下で働き、多様なバックグラウンドを持つ人々との協働することへの自信に繋がっています。

また、インターンシップで向上させた、目標・計画を立て、プロアクティブに情報を収集し、学び、結果をアウトプットする、意思を伝えるといった、一連の自発的行動を普段の業務でも実践し、評価を頂くこともありました。社会人として重要な所作を、インターンシップ活動を通じて学習でき、感謝しています。

今後の業務では、日本企業のお客様と、ITシステムの開発、保守を行うインド側のチーム間のコミュニケーションを支える機会が多く、日印のブリッジとしてそのような役割が求められています。インターンシップで学んだインドの商習慣、文化、品質、時間に対する認識の違いを理解しつつ、同時に発見できた共有する価値観も活かして、日本・インド間の情報、人の行き来を支え、ビジネスでの繋がりの発展に貢献していきたいと考えています。

インターンシップ同期生や、受入機関の方々とは、今でも情報交換を行っています。同期生は多様な業種の企業、機関へ就職し、多方面で活躍しており、将来はインターン派遣国と関わる事業を計画するなど、彼らから非常に刺激を受けています。

受入機関や、現地調査でお世話になった方々とも連絡を取り合っており、受入機関の事業活動や、現地の企業活動の近況をよく伺っています。海外、特に新興国では、人脈が非常に重要であり、人との繋がりが貴重な機会や情報を得るきっかけや、困った状況に陥った際の糸口となることを、インターンシップ活動の中で実感しました。インターンシップを通じて得た、貴重な国内外の人的交流を絶やさず、いずれ協働事業や、日本とインドとの繋がりを深めるきっかけを創出したいと考えています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

インターンシップという立場であるからこそ、様々なことに挑戦し、良い意味でたくさん失敗もできます。意外なきっかけから自分の関心を広めたり、新たな興味を持ったりすることもあります。また異文化を知るといふ点では、ある一定の長期間の滞在は必要であると思います。

このプログラムは、JETROやHIDAの方々の強固なサポートに支えられ、長期間異文化に浸り、なかなか飛び込むことのできない派遣先でインターンシップが出来る貴重な機会です。興味を持ち、プログラムがご自身の目標に沿っているとしたら、ぜひチャレンジされてみてはいかがでしょうか。

現在の活躍の様子



所属先の研修で、インドを再訪問した際、現地の研修生と共に